

行事報告・広がる支援の輪

明行寺にて、9月15日（土）「仏教婦人会主催秋季彼岸会」、9月29日（土）「第1回連続研修会」の法要が執り行われました。御講師はそれぞれ、伊藤公明師（八代市西音寺住職）、佐々木高彰師（山鹿市常法寺住職）をお迎えしました。お二人共、有難くも明行寺のご法要ではお馴染みの布教使さんです。「お念仏を心で思うだけでなく、お称えする意味」、「葬儀や法事を行う意義」について「自分自身が慶び、敬う姿をもって次世代に伝えていく」というお話を頂きました。ご参拝の皆様を巻き込みながらの、楽しく、温かいひとときでした。秋季彼岸会では婦人会の皆様による、彩り豊かで初秋らしい御齋をご準備頂きました。また両法要において、全国の被災地にむけた募金活動へのご協力、お供えもののお下がりをお子達におすそ分けする「おてらおやつクラブ」の活動についても、続々とご支援を頂いております。この場をお借りして御礼申し上げます。



秋季彼岸会 伊藤公明師



第1回連続研修 佐々木高彰師



お寺が出来る社会貢献を



秋らしさを感じる「御齋」



明行寺の山一面に咲く「秋



田園風景に映える「彼岸花」

今後の予定（10～12月）

ご家族、ご友人の皆様お誘い合わせの上、どうぞお参り下さいませ。

- | | | |
|-----------------|---------------|-----------------------|
| 10月 6日（土） | 13時～ | 元中通り蠟燭講ご消息披露（法話会）@西教寺 |
| 10月13日（水） | 9時半～ | 仏教婦人会追悼法要・研修会@西楽寺 |
| 10月27日（土） | 19時～ | 第2回連続研修会@傳教寺 |
| 11月 3日（土） | 13時～ | 元中通り蠟燭講ご消息披露（法話会）@浄光寺 |
| 11月10（土）、11日（日） | 午前10時～、午後13時～ | 元中通り蠟燭講順番報恩講@明行寺 |
| 11月24日（土） | 19時～ | 第3回連続研修会@西楽寺 |
| 12月1日（土） | 13時～ | 元中通り蠟燭講ご消息披露（法話会）@光徳寺 |

※11月10（土）、11（日）の「元中通り蠟燭講順番報恩講」におきましては、御齋の振舞いでなく、お弁当の手配を予定しております。手配の参考にさせていただくため、**10月21日（日）を目処に、地域の講中様へ「ご参拝予の日程、人数（お弁当必要な方）」**をお知らせ下さいませ。

< お稚児さん募集中! >



- 募集日時... 2018年11月11日（日）※法要2日目午前9時30 明行寺に集合
- 参加冥加金... 1名 8,000円 / 2名 15,000円 / 3名 20,000円
貸衣装、記念写真、お弁当2個[お子様用+保護者用]の費用が含まれます。
- 募集対象者... 小学校6年生までの男女
- お申し込み方法... 『稚児行列 参加申込書』にご記入、参加冥加金と同封
頂き明行寺までお持ちください。【〆切10月15日（月）】
詳しくは申込書をご確認くださいませ。

平成最後の年、明行寺では11月10（土）、11（日）に「元中通り組順番報恩講」を執り行います。「元中通り組順番報恩講」とは、毎月「ご消息披露（法話会）」を行っている9ヶ寺が合同で行う「報恩講」で、当山では実に8年ぶりのお勤めとなります。「報恩講」は、親鸞聖人のご遺徳を偲び、お念仏が受け継がれていることを喜び、お祝いする法要です。この度のご縁では、「お子様、お孫様の成長を喜ぶ節目の日」としても、多くの皆様にご参加頂ければ嬉しく思います。

ちなみに若院は、小学4年生（当時9歳）の年に、この法要に参加していました。共に稚児衣装を着た幼馴染に当時の事を尋ねてみますと、「変わった衣装を着て少し恥ずかしかったけど、友達や家族と写真撮影をし、お寺で遊んだ思い出」と話してくれました。

お友達やご家族とご一緒に、手を合わせるご縁に立ち会ってみませんか。ご参拝お待ちしております。

==コラム「お寺で七五三を行えるのですか？」==

浄土真宗では、七歳・五歳・三歳を迎えるお子さんを対象に参拝式を実施しているお寺もあります。仏前でのお勤めや仏さまのお話があるほか、写真撮影や記念品などが用意されています。お子さんがこれまで無事に育ったことをよろこび、ご家族やご縁のあるかたとそろってお参りしてお祝いしましょう。ところで、神社で七五三が行われるようになったのは明治の中頃で、それほど古いものではありません。七五三を神事と考えている方もおられるでしょうが、必ずしも神社で行わなければならない理由はないのです。七五三は、古くから公家や武家が行っていた儀式である三歳の「髪置（かみおき）」、五歳の「袴着（はかまぎ）」、七歳の「帯解（おびとき）」に由来するといわれています。髪置は髪を伸ばし始め、袴着は男児が初めて袴を着け、帯解は女児が大人の帯を締める儀式です。

このような風習は、子どもの死亡率が高かった時代に、七五三の年齢まで無事に育てることが難しかったことと関わりがあると考えられます。昔も今もわが子の成長をよろこばない親はいません。人生の節目をお寺で迎え、「ほとけの子」として生きていくことは大変尊いことでもあります。

～前田壽雄著書「浄土真宗本願寺派 仏事Q&A」（国書刊行会）より～

前田壽雄師

昭和49年北海道生まれ。浄土真宗本願寺派専念寺衆徒。武蔵野大学仏教文化研究所研究員、通信教育部人間科学部人間科学科准教授。浄土真宗本願寺派東京仏教学院研究科講師。著書に『書いて味わう讃仏偈 重誓偈』『教行信証のことばーやさしい法話ー』（本願寺出版社）がある。明行寺若院が神奈川県上正寺に勤めていた際、勉強会等でお世話になった恩師。